



# ご存知ですか

## Q 柳泉園組合 って、なに？

**A** 柳泉園組合は、田無・保谷・東久留米・清瀬の4市が、ごみの処理を共同で行うために設立した、特別な地方自治体です。  
法律上は、特別地方公共団体といいます。  
市長に当たる「組合管理者」は、現在、東久留米市の稲葉市長が務めています。  
所在地は、1ページめの地図をご覧ください。



## Q 柳泉園組合の仕事 って、なに？

**A** みなさんが出されたごみは、各市のごみ収集車によって、まず、柳泉園組合に運ばれます。  
柳泉園組合では、燃えるごみは焼却し、燃えないごみや、燃やしてはいけないごみは、機械でこまかく削いでいます。また、資源として再利用できるものを選び出して、売却しています。  
柳泉園組合には、このほか、し尿の処理施設や、ごみを燃やした熱を利用した温水プールもあります。

## Q 新しいごみ処理施設は、 なぜ必要？

**A** 田無・保谷・東久留米・清瀬の4市の市民が毎日出されるごみの量は、燃えるごみだけで現在、約230トンです。10年後でも約210トンの見込みです。  
これだけのごみを、衛生的に、安全に、また、安定して処理するには、現在のところ、燃やすのが最善の方法です。  
柳泉園組合と4市は、市民の協力を得て、ごみの減量とリサイクルに取り組んでいます。  
その結果、燃えるごみは着実に減っていますが、今、一気にゼロにするのは現実には、無理な話なのです。



## Q 新しいごみ処理施設の 計画は？

**A** 新しいごみ処理施設は、みなさんの家庭から出る、燃えるごみを焼却処理するための施設です。平成9年から工事を始め、平成12年11月から使用する予定です。  
1日105トンのごみを燃やせる焼却炉を3基備えます。このうち、1基はオーバーホールの時などの予備用です。また、ごみを燃やした熱を利用して電気をつくり、施設で使う分をまかなうほか、電力会社に売る計画です。  
公害に関しては、最新の技術による公害防止設備を設け、周辺環境を悪化させないようにします。

## Q ごみ問題は、いま？

**A** 多摩地域では、ごみの量はほぼ横ばいですが、相変わらずたくさんのごみが出ています。  
また、ごみの中にいろいろな物が混ざっているため、ごみ処理が難しくなり、周辺環境への影響も心配されます。  
さらに、ごみになる前に分けて出せば、資源として再利用できる物でも、分けるのが難しいため、ごみになってしまうという問題もあります。

## Q 私たちに できることは？

**A** 燃やしたり、埋め立てたりするごみの量が減るように、みなさんの日常生活で工夫できることはあるはずです。  
買い物袋を持参したり、中身が詰め替えられる洗剤、再生紙でつくったトイレペーパーなどに切り替えてくださるよう、お願いします。  
とりわけ、リサイクルできる物は、きちんと分けて出すことが大切です。例えば、紙類も新聞は新聞だけ、雑誌は雑誌だけと分ければ、資源として利用しやすくなります。

# 分別がごみ処理を変える

## Q 容器包装リサイクル って、なに？

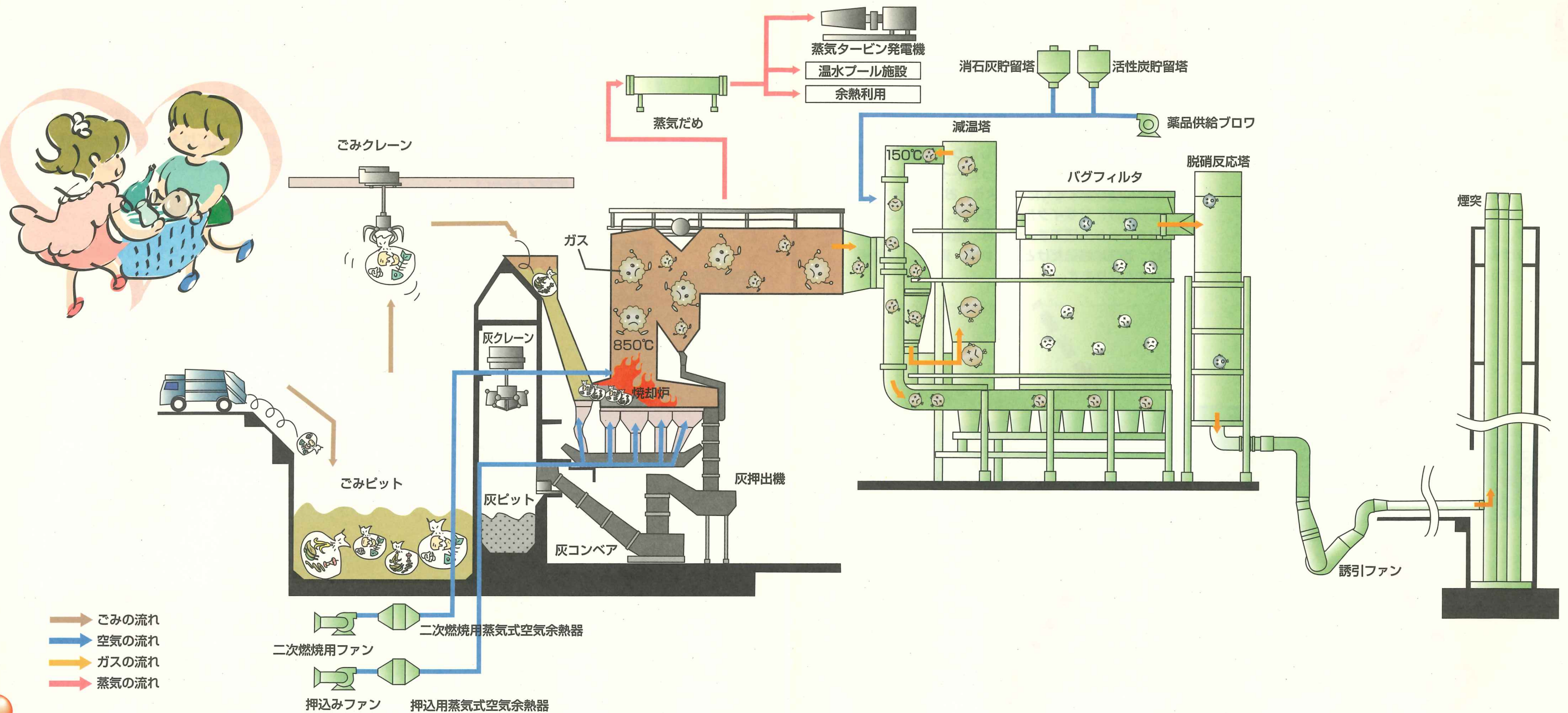
**A** ごみの6割程度は、中身よりも外側の容器や包装です。  
このため、「容器包装リサイクル法」(略称)がとられ、ペットボトルやびんを別の商品につくりかえる取り組みが始まりました。これを再商品化といいます。  
実際のやり方は、市民が分別して出したペットボトルやびんを、市が収集して柳泉園組合でストックし、選別し直したものを梱包した上で、再商品化業者に引き渡しています。

## Q 再商品化のための お願い

**A** ペットボトルやびんを再商品化するために、次のことを守ってくださるよう、お願いします。  
1. 塩化ビニール製品、ポリエステル製品やガラス製品など、材質が違うものをいっしょにしないでください。  
2. 水で洗い、そのあと水気をとってください。  
3. ふたは全部とってください。また、たばこの灰や石ころなどのごみを入れたまま出さないでください。

容器包装リサイクル法は平成9年4月から始まっています。

# 新ごみ処理施設のしくみ



**Q**

## ダイオキシンの心配は？

**A**

新しい施設では、ダイオキシン類の発生に対して、次のような対策を講じて、法律の規制を守ります。

- (1) ごみを850℃以上で燃やし、ダイオキシン類を分解します。
- (2) ごみを燃やしたあとのガスは、一気に150℃に冷やします。(ダイオキシン類の再合成を防ぐため)
- (3) それでもダイオキシン類が残った場合は、消石灰や活性炭で吸い取ったり、バグフィルターで捕まえます。

**Q**

## 建設費は、いくら？

**A**

新しいごみ処理施設の建設費は、約144億円です。市にとっては大変な金額ですが、他の自治体の施設と比べて高いとはいえません。

ごみ処理施設の場合、建設費を1日当たりの焼却能力(柳泉園組合では315トン)で割ったトン当たり単価で比較されますが、新聞報道によれば、平成9年度中の全国平均は、約4,850万円、柳泉園組合の新施設は、約4,570万円です。

**Q**

## ごみを燃やしたあとの灰は、どこへ？

**A**

灰は、現在は日の出町にある二ツ塚処分場で埋めています(裏の地図をご覧ください)。

柳泉園組合では、新しい施設の中に、灰をいったん溶かしてから冷やし、道路工事などで使う路盤材をつくる設備(灰溶融炉といいます)を設ける予定でした。

ところが、多摩地域全体で、灰からセメント(エコセメントといいます)をつくる計画が進み始めました。

このため、灰溶融炉の設置は見合わせることにしました。

**Q**

## エコセメントって、なに？

**A**

セメントは、主として石灰石と粘土を原料にしていますが、ごみを燃やした灰の成分がこのセメント原料の成分に似ていることがわかりました。

このため、石灰石と灰を混ぜて、セメントをつくる技術が開発されました。これをエコセメントといいます。

灰が全部エコセメントになれば、最終処分場に埋めるのは、燃えないごみだけになり、最終処分場を長い間使えるようになります。